

第 V 章

日本医学会の活動

2021 年度日本医学会の活動

門田 守人*

Monden Morito

* 日本医学会会長

1. 日本医学会総会

1) 「第31回日本医学会総会 2023 東京」の準備

第31回日本医学会総会（2023年）はメインテーマ「ビッグデータが拓く未来の医学と医療～豊かな人生100年時代を求めて～」とし、開催の準備を進めている。新型コロナウイルス感染症の影響下ではあるが、組織委員会の元、総会の開催形式も含めて各委員会で討議を重ねている。各委員会の開催状況は下記の通り。

2022年1月7日現在、決定している概要をその下に掲載する。

● 2021年4月～2022年1月までの主要な委員会開催状況（主にZoomを使用）

- ・学術委員会：第4回 4/27、第5回 8/4
- ・総務委員会：第3回 5/6、第4回 10/6、第5回 1/18（予定）
- ・登録委員会：第3回 6/9、第4回 9/29、
- ・展示委員会：第5回 6/25、第6回 9/25、第7回 1/15（予定）
- ・広報委員会：第3回 6/19、第4回 10/1
- ・式典委員会：第3回 1/11（予定）
- ・記録委員会：第4回 10/11、第5回 12/13
- ・男女共同参画等委員会：第4回 6/3、第5回 12/17
- ・ソーシャルイベント委員会：第2回 9/16

1. 学術委員会

- ・臨床系、基礎系、社会医学・看護系、医工学系の4サブグループの企画案を基に、約50セッションの企画内容を検討、そのうち43セッションは依頼済である。
- ・日本看護協会、日本歯科医師会、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会と連携し、各協会との共同企画として、6セッションの企画内容を検討している。
- ・会頭特別企画として、『2024年の働き方改革』『2025年に向けた地域医療構想』『患者・市民参画(PPI)』をテーマとしたセッションを検討している。
- ・日本医学会奨励賞の概要について検討している。
- ・日本医師会および東京都医師会と連携し、産業医の研修単位取得セッションの内容を検討し、約100セッションは依頼済である。

2. 総務委員会

- ・会場については東京国際フォーラムをはじめ、講演会場を約30カ所確保している。
- ・各分科会の認定単位数は前回大会より13学会増加し、合計90学会となった。なお、産業医認定

単位については日本医師会、東京都医師会の協力を得て、依頼している。

- ・コンgresバッグをはじめとした学術プログラム等の参加登録者に対する配付物についても検討をしている。
- ・総会開催前に、一般市民を対象とした市民公開講座の開催を検討している。
- ・各省庁はじめ医療関係およびメディアへの後援名義使用の承諾を受けた（一部については承認待ち）。

3. 登録委員会

- ・参加者の事前登録を2月1日より開始した。
- ・参加登録料金は前回同様と据え置いたが、同一職種内の登録者については【団体割引制度】を適用した。また、【早期事前登録】のほか【Web登録】および【U40登録】・【Over75登録】を新設した。
- ・今回初めての試みとして全国の医学部・医科大学、都道府県医師会の推薦により、登録推進委員を選出した。

4. 展示委員会

- ・博覧会のテーマを「みんなで健康みんなの医療みんなが健康」とし、ロゴマークを作成した。
- ・学術展示、博覧会の開催会場を決定し、2021年9月1日より学術展示、博覧会の出展・協賛募集を開始した。
- ・オンライン学術展示、オンライン博覧会の展開方法についての検討を開始した。
- ・ホームページ内に学術展示・博覧会ページを開設した。
(<http://isoukai2023.jp/exhibition/index.html>)
- ・2021年5月～11月にかけて3回の展示説明会を開催した。
5月12日 Web開催
8月26日 Web開催
11月25日 ハイブリッド開催（展示会場見学会を同時開催）

5. 広報委員会

- ・広報用ポスターの公募を行い、応募総数107作品の中から、最優秀賞1点、優秀賞3点を選出し、2021年12月8日に授賞式を執り行った。
- ・総会へ向けた意気込み・抱負等をテーマとした組織委員へのインタビューや各委員会の活動状況などを掲載し、ホームページの充実を図った。
- ・SNS（Facebook、Twitter）の開設を準備中である。

6. 式典委員会

- ・開会式、閉会式ともに東京国際フォーラムで開催することとしており、開会式の前日に開催される会頭招宴についても鋭意準備中である。

7. 財務委員会

- ・寄附金および協賛・出展を団体・企業等へ積極的に依頼している。
- ・透明なる財務を構築するため、一昨年より会計事務所に経理処理を依頼している。

8. 記録委員会

- ・記念新書「医の変革」を総会当日に発行し、参加登録者に配付することとしている。
- ・総会の“基本理念”をテーマとした子供向け絵本等の出版を計画している。

9. 男女共同参画等委員会

- ・男女共同参画の取り組みについていくつかの分科会に講演を依頼することを検討した。

- ・学術展示会場内に「スマートな働き方」の展示を企画している。

10. ソシアルイベント委員会

- ・16の種目を企画し、その準備に取り掛かっている。

11. 事務局

第31回日本医学会総会 事務局

事務局長 小嶋照郎

〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学医学部附属病院中央診療棟2(8F)

Phone : 03-5800-8971 Fax : 03-5800-6412

Email : office@isoukai2023.jp

2. 日本医学会幹事会

第5回日本医学会幹事会を、2022年2月25日(金)にwebにより開催した。主な議題は、「2021年度日本医学会年次報告」、「2022年度日本医学会事業計画」、「日本医学会創立120周年記念事業」、「日本医学会新規加盟学会」等である。

3. 日本医学会臨時幹事会

日本医学会臨時幹事会を2021年6月11日(金)に開催した。主な議題は「日本医学会役員について」、「日本医学会分科会の名称変更の際の対応について」、「日本医学会規則(公益社団法人日本医師会定款)の変更について」、「出生前検査認証制度等運営委員会(仮称)について」、「学会名の変更について(日本造血細胞移植学会、日本耳鼻咽喉科学会)」、「第32回日本医学会総会(2027年開催)について」である。

4. 日本医学会定例評議員会

第89回日本医学会定例評議員会を、2022年2月25日(金)にweb開催。主な議題は、「2021年度日本医学会年次報告」、「2022年度日本医学会事業計画」、「日本医学会創立120周年記念事業」、「日本医学会新規加盟学会」等である。

5. 日本医学会臨時評議員会

日本医学会臨時評議員会を2021年6月18日(金)に開催した。主な議題は「日本医学会役員について」、「日本医学会分科会の名称変更の際の対応について」、「日本医学会規則(公益社団法人日本医師会定款)の変更について」、「出生前検査認証制度等運営委員会(仮称)について」、「学会名の変更について(日本造血細胞移植学会、日本耳鼻咽喉科学会)」、「第32回日本医学会総会(2027年開催)について」である。

6. 日本医学会シンポジウム

1) 日本医学会シンポジウム

新型コロナウイルス感染症の拡大傾向を受けて、無観客にて講演収録の形態により、次のとおり2回開催された。

●第158回日本医学会シンポジウム

「医療ビッグデータ・AIを活用したこれからの医療」をテーマに2021年7月10日（土）、日本医師会館大講堂にて、無観客で講演の収録のみが行われた。組織委員：岩中 督（埼玉県立病院機構理事長／東京大学名誉教授）、宮野 悟（東京医科歯科大学 M & D データ科学センター長・特任教授）、参加者数：9名（演者・役員のみ）。

●第159回日本医学会シンポジウム

「医療勤務環境改善による医師の働き方改革－医師としてどのように働きたいか－」をテーマに2021年12月25日（土）、日本医師会館大講堂にて、無観客で講演の収録のみが行われた。組織委員：天谷雅行（慶應義塾常任理事）、野原理子（東京女子医科大学衛生学公衆衛生学教授）、参加者数：11名（演者・役員のみ）。

2) 日本医学会シンポジウム企画委員会

標記委員会（委員：佐谷秀行、野田泰子、南学正臣、青木茂樹、瀬戸泰之、松本守雄、野原理子、宮田裕章）の8名で構成されており、シンポジウムの基本方針、テーマおよび組織委員について企画構成を行っている。今年度は次のとおり開催した。

第6回日本医学会シンポジウム企画委員会（2021年5月7日）において、第159回シンポジウムのテーマ案について検討がなされた。

第7回日本医学会シンポジウム企画委員会（2021年10月20日）において、第160回シンポジウムのテーマ案について検討がなされた。

3) 日本医学会シンポジウム記録

「第158回日本医学会シンポジウム」「第159回日本医学会シンポジウム」の全容を日本医学会ホームページ（HP）の「Online ライブラリー」の項で映像配信した（<https://jams.med.or.jp/>）。

4) 日本医学会シンポジウムの講演要旨

講演要旨は、日本医師会雑誌に次のとおり掲載した。

第158回日本医学会シンポジウム「医療ビッグデータ・AIを活用したこれからの医療」：第150巻7号。

第159回日本医学会シンポジウム「医療勤務環境改善による医師の働き方改革－医師としてどのように働きたいか－」：第150巻12号。

7. 日本医学会公開フォーラム

1) 日本医学会公開フォーラム

新型コロナウイルス感染症の拡大傾向を受けてシンポジウムと同様、無観客にて講演の収録のみを行った。本年度は2回開催した。

●第29回日本医学会公開フォーラム

「ウィズ・コロナ時代の医療の在り方」をテーマに2021年6月5日（土）、日本医師会館大講堂にて無観客収録した。組織委員：門脇 孝（日本医学会副会長／国家公務員共済組合連合会虎の門病院院長）、森 正樹（日本医学会副会長／日本外科学会理事長）、参加者数：12名（演者・役員のみのみ）。

●第30回日本医学会公開フォーラム

「ワクチンについて考える」をテーマに2021年12月18日（土）、日本医師会館大講堂にて無観客収録した。組織委員：西 順一郎（日本感染症学会理事）、岡田賢司（日本ワクチン学会理事長）、参加者数：10名（演者・役員のみのみ）。

2) 日本医学会公開フォーラム企画委員会

日本医学会公開フォーラム企画委員会（委員：跡見 裕、池田康夫、小野 稔、永山悦子、羽鳥 裕、南 砂、綿田裕孝）は、日本医学会公開フォーラムの基本方針、テーマおよび組織委員について、企画構成を行う。今年度は、次のとおり2回開催した。

第8回日本医学会公開フォーラム企画委員会（2021年5月7日）において、第30回公開フォーラムのテーマと組織委員を決定した。

第9回日本医学会公開フォーラム企画委員会（2020年10月14日）において、第31回日本医学会公開フォーラムのテーマと組織委員長を決定した。

3) 日本医学会公開フォーラム記録

「第29回日本医学会公開フォーラム：ウィズ・コロナ時代の医療の在り方」、「第30回日本医学会公開フォーラム：ワクチンについて考える」を日本医学会ホームページの「Online ライブラリー」で映像配信した（<http://jams.med.or.jp/>）。

8. 日本医学会協議会

毎月1回、会長・副会長、日本医師会担当副会長・常任理事で定期的に行われている。

9. 日本医学会医学用語管理委員会

日本医学会医学用語管理委員会は、日本医学会の委員会の中で最も歴史が古い委員会である。委員長：大江和彦（東京大学大学院医学系研究科教授・医療情報学）、副委員長：南学正臣（東京大学大学院医学系研究科教授・腎臓内科学）、委員：安西尚彦（千葉大学大学院医学研究院教授・薬理学）、石川俊平（東京大学大学院医学系研究科教授・衛生学）、今井 健（東京大学大学院医学系研究科疾

患生命工学センター准教授・医工情報学)、荻島創一(東北大学高等研究機構 未来型医療創成センター教授)、小野木雄三(国際医療福祉大学三田病院教授・放射線診断センター)、河原和夫(東京医科歯科大学大学院教授・政策科学)、神庭重信(九州大学名誉教授)、久具宏司(都立墨東病院産婦人科部長)、齊藤光江(順天堂大学大学院医学系研究科教授・乳腺科)、坂井建雄(順天堂大学保健医療学部特任教授・理学療法学科)、辻 省次(国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科教授/東京大学大学院医学系研究科寄附講座特任教授・分子神経学講座)、森内浩幸(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授・小児科学)の12名と協力会社2社により構成されている。第1回委員会を2021年6月29日(火)に、第2回委員会を2022年1月12日(水)に開催した。

10. 遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ

遺伝学に関する用語は、医学、教育、社会において広い分野で関係することから、日本医学会としては十分な検討の上、プロセスを踏んでコンセンサスを形成することが重要と考え、医学用語管理委員会の下にワーキンググループ(WG)を設けて検討を行ってきた。委員は辻 省次(座長、日本神経学会)、柏井 聡(日本眼科学会)、久具宏司(日本産科婦人科学会)、櫻井晃洋(日本人類遺伝学会)、戸田達史(日本神経学会)、小崎健次郎(日本先天異常学会)、榊屋啓志(日本遺伝学会)、森内浩幸(日本小児科学会)、各委員。

本年度は2021年6月25日(金)に開催した。主な議題は第25回医学用語管理委員会に提出した遺伝学用語に関するワーキンググループからの報告、dominant inheritance, recessive, inheritanceの用語についてである。今年は第10回委員会を2021年6月25日(金)に、第11回を2022年2月3日(木)に開催した。2022年1月24日分科会宛てに「優性遺伝、劣性遺伝に代わる推奨用語について」を出し、周知を依頼した。周知文には「優性遺伝」「劣性遺伝」に代わる推奨用語は、それぞれ「顕性遺伝」「潜性遺伝」とするが、医学用語の変更は分科会や関連学会のみならず、医学以外の諸分野にも関連し、大きな影響が及ぶことがあることから、今後、用語の変更を検討される際には早い段階で日本医学会に相談をいただくとともに、分科会以外の医学生物関係の学会において用語の変更を検討されているという情報があれば、本会にご一報をいただきたいという一文を添えている。

11. 「奇形」を含む医学用語の置き換えに関するワーキンググループ

患者や家族にとって辛い響きである「奇形」という用語を別の言葉に変える事を検討するため、2019年10月に医学用語管理委員会の下に発足したワーキンググループ(WG)である。

臓器名や病名に続いて「奇形」が用いられている用語について置き換えの提案を検討する。「奇形」を含む用語は様々あり、一律に置き換えられない問題を含んでいることから、WGで十分な議論を行い、分科会や関係する様々な分野の団体にも意見を伺い、コンセンサスを得たいと考えている。

座長：森内浩幸(長崎大学 小児科)、委員：大植孝治(兵庫医科大学 小児外科)、柏井 聡(愛知淑徳大学 視覚科学)、久具宏司(都立墨東病院 産婦人科)、小崎健次郎(慶應義塾大学 臨床遺伝学)、古庄知己(信州大学 遺伝学)、坂本博昭(大阪市立総合医療センター)、滝川一晴(静岡県立こども病院 整形外科)、西本 聡(兵庫医科大学 形成外科)、丹羽隆介(筑波大学 生存ダイナミクス)、榊屋啓志(理化学研究所バイオリソースC)、三木崇範(香川大学 神経機能形態学)で構成されている。

委員は議論の内容によりメンバーがさらに加わることもある。

今年度は2021年8月25日（金）に開催された。これまでの経緯説明、各学会から提出された奇形を含む用語について検討を行った。

12. 用語表記基本指針策定ワーキンググループ

本年度新設されたワーキンググループで、医学用語における用語の表記方法の基本方針を策定することを目的としている。座長：久具宏司（都立墨東病院産婦人科部長）、委員：坂井建雄（順天堂大学保健医療学部特任教授・理学療法学科）、今井 健（東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター准教授・医工情報学）、神庭重信（九州大学名誉教授）、森内浩幸（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授・小児科学）、西嶋佑太郎（京都府立洛南病院）笹原宏之（早稲田大学 社会科学総合学院社会科学部教授）の7名で構成されている。2021年12月2日に準備会合が開催された。

13. 日本医学会分科会用語委員会

2021年度日本医学会分科会用語委員会は2022年2月8日（火）にwebで開催された。

14. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会

医学賞・医学研究奨励賞の選考作業は、日本医学会が日本医師会より委任されているもので、本年度は2021年8月27日（金）に開催された。

委員に加え、本年度は、特例委員として、渡辺雅彦（北海道大学大学院医学研究院教授）、竹内勤（慶應義塾大学医学部名誉教授）、池田 学（大阪大学大学院医学研究科教授）、桑原宏一郎（信州大学医学部教授）、坂田泰史（大阪大学大学院医学研究科教授）、高橋英彦（東京医科歯科大学大学院主任教授）、光富徹哉（近畿大学医学部教授）、森山 寛（東京慈恵会医科大学名誉教授）、米田光宏（国立成育医療センター診療部長）、後藤 浩（東京医科大学教授）の10氏が加わった。

結果は、医学賞4名、医学研究奨励賞15名が選考され、11月1日の日本医師会設立記念医学大会において表彰された。なお、医学賞受賞者の論文を日本医師会雑誌（第150巻第10号）に掲載した。

● 2021年度日本医師会医学賞

- ・アルツハイマー病・認知症性疾患の分子病態と治療法に関する研究
岩坪 威／東大・神経病理学
- ・難病の疫学研究
中村好一／自治医大・公衆衛生学
- ・心不全の病態の解明と新規治療法の開発
小室一成／東大・循環器内科学
- ・消化器癌に対する個別的低侵襲治療・集学的治療法の開発
北川雄光／慶大・消化器外科学

● 2021 年度日本医師会医学研究奨励賞

- ・新規 T 細胞「MP 細胞」の医学的意義の解明
河部剛史／東北大・免疫学
- ・生体の恒常性と変容を支える細胞内分解システムの同定とその破綻による病態生理の解明
森下英晃／順天堂大・器官細胞生理学
- ・糞便 RNA ワールドの理解と制御をつうじた「セロトニン医療」の創生
丸山健太／生理学研究所・細胞生物学
- ・上皮細胞置換により臓器に異なる臓器機能を付与する治療開発
杉本真也／慶大・消化器内科学
- ・ニューロモデュレーション作用機序の解明に向けた前頭前野局所回路数理モデルの構築
山室和彦／奈医大・精神医学
- ・環境疫学的アプローチによる大気環境の次世代影響機序の探究
道川武紘／東邦大・疫学
- ・慢性骨髄性白血病治療のための白血病幹細胞を標的とした新規 DNA メチル化阻害剤併用治療戦略
嬉野博志／佐賀大・血液・腫瘍内科学
- ・特発性肺線維症に対するエクソソーム治療法開発
藤田 雄／慈恵医大・呼吸器内科学
- ・新たな腎代替療法にむけたゲノム改変動物に依らないキメラ腎臓再生法の開発
山中修一郎／慈恵医大・腎臓内科学
- ・前頭側頭葉変性症における異常伸長リピート翻訳の研究
森 康治／阪大・精神医学
- ・腫瘍側と宿主側の両面からアプローチする大腸癌の診断・治療に関する橋渡し研究
奥川喜永／三重大・消化器外科学
- ・微生物叢や免疫微小環境を介したフレイルを有する消化器癌患者の病態解明
美馬浩介／熊本大・消化器外科学
- ・ビッグデータと遺伝子プロファイルを用いた日本人聴力の多角的解析—認知症発症予防を目指して—
和佐野浩一郎／東医セ・耳鼻咽喉科学
- ・三次元構造を加味した統合ゲノム解析による子宮内膜幹細胞の同定
吉原弘祐／新潟大・産科婦人科学
- ・ナノ粒子誘導マクロファージによる結晶貪食能を利用した尿路結石の溶解治療の開発
田口和己／名市大・腎・泌尿器科学

15. 日本医学会加盟検討委員会

日本医学会加盟検討委員会は、13 名の委員により構成。

2021 年度第 1 回日本医学会加盟検討委員会を 2021 年 4 月 6 日（火）に開催した。2021 年度第 2 回日本医学会加盟検討委員会を 11 月 30 日（火）に開催し、今年度の加盟申請の 23 学会についての審査を慎重に行い、その結果を日本医学会協議会に提出した。因みにこの審査は、日本医学会加盟検討

委員会報告（2021年5月）に示された審査基準に基づいて行われている。

16. 日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会

平成23年度に発足した委員会で、日本医学会として遺伝情報の取り扱い、検査の質保証、提供体制などに取り組むことを目的としている。委員長：福島義光（信州大学医学部遺伝医学部特任教授）、担当副会長：門脇 孝（国家公務員共済組合連合会虎の門病院院長）、委員：青野由利（毎日新聞東京本社論説室専門編集委員）、苛原 稔（徳島大学大学院医歯薬学研究部長）、尾崎紀夫（名古屋大学大学院医学系研究科教授・精神医学・親と子どもの心療学分野／ゲノム医療センター長・脳とこころの研究センター長兼任）、鎌谷洋一郎（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授・メディカル情報生命専攻複雑形質ゲノム解析分野）、杉浦真弓（名古屋市立大学大学院医学研究科教授・産婦人科学）、高田史男（北里大学大学院医療系研究科教授・臨床遺伝医学）、中村清吾（昭和大学医学部外科学講座教授・乳癌外科／大学病院ブレストセンター 診療科長）、中山智祥（日本大学医学部医学科教授・臨床検査医学分野）、松原洋一（国立成育医療研究センター研究所長）、山内敏正（東京大学大学院医学系研究科教授・糖尿病・代謝内科）の11名の委員で構成されている。

ゲノム医療の実装に伴い、諸外国では2000年代から生命保険分野における遺伝情報の取り扱いに関するルール策定や見直しが急速に進んでいるが、我が国では個人情報保護法による対応のみに留まっており、生命保険等における遺伝情報の取り扱いに関するルールは法律あるいは自主ルールのいずれの形で定められていないことから、「遺伝情報・ゲノム情報による差別・不利益の防止」についての共同声明を発出すべく分科会に意見を伺った。

また、2011年2月に出された「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」については、次世代シーケンサーを用いた網羅的遺伝学的検査や各種遺伝子パネル検査等の新しい検査技術が医療応用されるようになり、あらたな課題が生じてきたこと。個人情報保護法や医療法など本ガイドラインに係わる法律等の改正も行われ、それに適応させることも求められたために、見直すことになり、改定案を作成し、分科会に意見を伺った。

本年度の委員会は2021年4月13日（火）、7月9日（金）、12月14日（火）、2022年2月1日（火）、2月17日（木）に開催された。

17. 日本医学会利益相反委員会

平成22年度に発足した「日本医学会臨床部会利益相反委員会」を、平成24年度に「日本医学会利益相反委員会」に改称した。担当副会長：門脇 孝（国家公務員共済組合連合会虎の門病院院長）、委員長：曾根三郎（徳島大学名誉教授）、委員：石岡千加史（東北大学大学院医学系研究科教授）、植木浩二郎（国立国際医療研究センター糖尿病研究センター長）、荻田香苗（日本医学会幹事／杏林大学医学部教授）、寺井崇二（新潟大学大学院医歯学総合研究科教授）、土岐祐一郎（大阪大学大学院医学系研究科教授）、南学正臣（東京大学大学院医学系研究科教授）、矢野聖二（金沢大学がん進展制御研究所教授）、浅井文和（日本医学ジャーナリスト協会会長／元朝日新聞社編集委員）、小笠原彩子（南北法律事務所弁護士）、小島多香子（東京医科大学准教授）の11名で構成。

第21回委員会を2021年9月22日に開催した。主な議題は、①COIマネジメントの活動経緯と

2021年度の取り組み（日本医学会利益相反委員会 e-mail 通信第3号発行予定（10月頃）、医学雑誌投稿にかかる ICMJE COI FORM への整合性化について、日本医学会 COI 管理ガイドライン（2022年一部改定案）について、第7回日本医学会分科会利益相反会議開催について、日本医学会分科会利益相反委員会へのアンケート調査実施について、日本医学雑誌編集者組織委員会：医学雑誌編集ガイドライン改定への進捗状況）、②日本医学雑誌編集者組織委員会活動報告（医学雑誌編集ガイドライン改定案含め）等であった。

第22回委員会を2022年3月29日（火）に開催した。主な議題は、①日本医学会 COI 管理ガイドライン（2022）一部改定の報告、②企業主催講演会における学術講演内容介入事案について、③日本医学雑誌編集者組織委員会活動報告、④その他等であった。

18. 日本医学会分科会利益相反会議

第7回日本医学会分科会利益相反会議は、新型コロナウイルスの感染拡大状況に鑑み、2021年12月3日に無観客収録した。詳細は、日本医学会ホームページに掲載したので、参照いただきたい。

総会に引き続き、シンポジウムは、曾根三郎（徳島大学名誉教授）、寺井崇二（新潟大学大学院教授）の司会の下、下記のプログラムで開催された。

- ・医学雑誌編集者国際委員会 ICMJE：COI 開示の考え方とその申告様式の経緯／小島多香子（日本医学会利益相反委員会委員）
- ・我が国の利益相反管理の現状とグローバル化への取り組み／曾根三郎（日本医学会利益相反委員会委員長）
- ・日本医学会分科会を対象としたアンケート調査結果について／寺井崇二（日本医学会利益相反委員会委員）
- ・Institutional COI の管理：現状と課題／苛原 稔（全国医学部長病院長会議臨床研究・利益相反検討委員会委員長）
- ・『日本医学会 医学雑誌編集ガイドライン』改訂のポイント／北村 聖（日本医学会医学雑誌編集者組織委員会委員長）
- ・製薬企業の透明性ガイドライン：産学連携推進に向けた製薬協の取り組みと課題／田中徳雄（日本製薬工業協会常務理事）

19. 日本医学会産学連携健全化ワーキンググループ

2022年1月に日本医学会長直轄のワーキンググループとして、新たに発足した。①最新の医療情報の提供における内容の質と信頼性の確保。②学術講演事業活動による我が国の医療レベルの向上を図るための社会貢献のあり方、③学術講演者の役割と内容責任にかかる講演者資格の検討、④医療関連企業主催・共催の講演会に招聘される講演者の中立性、独立性の確保と講演内容にかかる責任の明確化。④本会関連団体（日本医師会、全国医学部長病院長会議、国立大学病院長会議、国立大学医学長会議等）との連携による産学連携の在り方について検討することを目的にしている。

担当副会長：門脇 孝（日本医学会副会長／国家公務員共済組合連合会虎の門病院院長）、座長：曾根三郎（日本医学会利益相反委員会委員長／徳島大学名誉教授）、委員：飯野正光（日本医学会副

会長／東京大学国際高等研究所ニューロインテリジェンス国際研究機構機構長特別補佐)、土岐祐一郎(日本医学会利益相反委員会委員／日本癌治療学会理事長)、南学正臣(日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会委員長／日本医学会利益相反委員会委員)、平井昭光(弁護士)、アドバイザー：藤原康弘(独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事長)の7名で構成。

日本医学会産学連携健全化ワーキンググループと日本製薬工業協会との意見交換会を2022年1月13日(木)に開催した。議題は、1)学術講演による社会貢献と健全な産学連携推進、2)産学連携健全化にかかる協議会(案)の設置についてであった。2月4日(金)に第1回ワーキンググループを開催し、3月31日(木)に第2回ワーキンググループを開催した。

20. 日本医学雑誌編集者組織委員会

日本医学雑誌編集者組織委員会は、平成20年に発足した。担当副会長：磯 博康(大阪大学大学院医学系研究科教授)、委員構成は、委員長：北村 聖(東京大学名誉教授／地域医療研究所シニアアドバイザー)、委員：有馬 寛(名古屋大学大学院医学系研究科教授)、遠藤 格(横浜市立大学大学院医学研究科教授)、木内貴弘(東京大学医学部附属病院大学病院医療情報ネットワークセンター教授)、北川正路(東京慈恵会医科大学学術情報センター課長)、黒沢俊典(特定非営利活動法人医学中央雑誌刊行会データベース事業部次長)、武田裕子(順天堂大学大学院医学研究科教授)、津谷喜一郎(WHO西太平洋地域事務局医学情報データベース日本国内委員会(WPRIMJ)委員長)、中山健夫(京都大学大学院医学研究科健康情報学教授)、林 和弘(科学技術・学術政策研究所上席研究官)、吉岡俊正(東都大学学長)の11名である。

第26回委員会を、2021年11月2日(火)に開催した。主な議題は、①『日本医学会 医学雑誌編集ガイドライン』の改訂について、②日本医学会利益相反委員会活動報告、③今後の活動について等であった。

21. 日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会・シンポジウム

第10回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会・第10回シンポジウムは、新型コロナウイルスの感染拡大状況に鑑み、2021年6月2日に無観客収録した。詳細は、日本医学会ホームページに掲載したので、参照いただきたい。

第10回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会に引き続き、シンポジウムは、北村 聖(日本医学雑誌編集者組織委員会委員長／東京大学名誉教授／地域医療研究所シニアアドバイザー)の司会の下、下記のプログラムで開催された。

- ・医学分野におけるプレプリントをめぐる動向／林 和弘(日本医学雑誌編集者組織委員会委員／科学技術・学術政策研究所上席研究官)
- ・プレプリントに対する医学雑誌編集者・出版社の対応／北川正路(日本医学雑誌編集者組織委員会委員／東京慈恵会医科大学学術情報センター課長)
- ・事例報告 プレプリントの利活用に向けたJ-STAGEの取り組み／加藤斉史(日本医学雑誌編集者組織委員会オブザーバー／国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)情報基盤情報部研究成果情報グループ調査役)

22. 研究倫理教育研修会

日本医学会分科会全体で、研究倫理のあり方、研究不正問題の予防と発生時の対応について情報を共有し、各分科会会員の教育啓発に活かすことを目的として、日本医学会連合研究倫理委員会、日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会、日本医学雑誌編集者組織委員会、日本医学会利益相反委員会合同で、毎年開催していたが、新型コロナウイルスの感染拡大状況に鑑み、2020年度に引き続き、2021年度も中止となった。

23. 日本医学会子宮移植倫理に関する検討委員会

日本医学会子宮移植倫理に関する検討委員会は、日本産科婦人科学会と日本移植学会からの要望を受けて、倫理的な課題や社会的な影響、医学的な安全性を日本医学会として検討するために、2019年4月に新たに発足した。委員構成は、委員長：飯野正光（東京大学国際高等研究所ニューロインテリジェンス国際研究機構機構長特別補佐／日本医学会副会長）、委員：会田薫子（東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター特任教授）、市川家國（信州大学医学部特任教授／日本医学会連合研究倫理委員会委員長）、苛原 稔（徳島大学大学院医歯薬学研究部長／日本産科婦人科学会倫理委員会副委員長）、加藤和人（大阪大学大学院医学系研究科医の倫理と公共政策学教授／日本生命倫理学会理事）、畔柳達雄（日本医師会参与／弁護士）、國土典宏（国立国際医療研究センター理事長／日本移植学会倫理委員会委員長）、霜田 求（京都女子大学倫理学教授）、柘植あづみ（明治学院大学医療人類学教授）、町野 朔（上智大学名誉教授）、丸山英二（神戸大学名誉教授）、武藤香織（東京大学医科学研究所公共政策研究分野教授）、横野 恵（早稲田大学医事法／生命倫理准教授）、渡辺弘司（日本医師会常任理事）の14名。

2021年4月30日（金）に第11回委員会、5月20日（木）に第12回委員会、7月8日（木）に第13回委員会がそれぞれ開催され、「日本医学会 子宮移植倫理に関する検討委員会報告書」をまとめ、7月14日（水）に門田会長、飯野委員長、横野委員が出席した日本医師会館小講堂での記者会見で公表した。

24. 日本医学会総会あり方委員会

日本医学会総会のあり方について、中・長期的な展望で検討する委員会で14名の委員で構成されている。

委員長：飯野正光（日本医学会副会長／東京大学国際高等研究所ニューロインテリジェンス国際研究機構機構長特別補佐）、副委員長：森 正樹（日本医学会副会長／東海大学医学部長）、委員：門脇 孝（日本医学会副会長／国家公務員共済組合連合会虎の門病院院長）、細谷紀子（東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター放射線分子医学部門准教授）、松原謙二（日本医師会副会長）、玉腰暁子（北海道大学大学院医学研究院社会医学分野公衆衛生学教授）、春日雅人（朝日生命成人病研究所長）、磯 博康（日本医学会副会長／大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学教授）、熊ノ郷 淳（大阪大学大学院医学系研究科呼吸器・免疫内科学教授）、羽鳥 裕（日本医師会常任理事）、齋藤光江（日

本医学会幹事／順天堂大学医学部教授)、高橋雅英(名古屋大学理事)、大野京子(東京医科歯科大学眼科学教授)、柳田素子(京都大学大学院医学研究科腎臓内科学教授)の14名で構成されている。

25. 再生医療等レジストリ協議会

再生医療等製品の市販後調査・治験等における患者登録システムの効率的な運用を目的として本年度より発足した。会の事務局は日本再生医療学会が行う。再生医療製品／臨床研究・臨床試験におけるレジストリ調査のあり方を検討し、実際に調査項目の策定までを行う。全体的なポリシーメイキングを行う再生医療レジストリ検討会と、個々の製品や研究の調査項目の策定を行う再生医療等レジストリ委員会の2つの会議体から成る。日本医学会分科会、PMDA、日本再生医療学会と連携をとりながら進めている。

26. 日本医学会創立120周年記念事業

日本医学会は明治35年(1902)4月2日～5日に16分科会が集合し、第1回日本聯合医学会を上野の東京音楽学校で開催しており、これを本会の公式な設立日としている。2022年は創立120周年にあたることから、記念式典、記念誌の発行、未来への提言作成が予定されており、これらの準備のため2020年度に3委員会が発足している。分科会、日本医学会連合の協力を得ながら、鋭意準備を進めている。

1) 記念式典委員会

森 正樹(日本医学会副会長:委員長/東海大学医学部長)、岩本幸英(幹事/九州労災病院長)、苛原 稔(幹事/徳島大学大学院医歯薬学研究部長)、荻田香苗(幹事/杏林大学医学部教授)、小室一成(幹事/東京大学大学院医学系研究科教授)、瀬戸泰之(幹事/東京大学医学部附属病院長)、成宮 周(幹事/京都大学大学院医学研究科メディカルイノベーションセンター長・特任教授)、松原謙二(日本医師会副会長)の8名で構成されている。第2回委員会を2021年11月9日(火)、第3回を2021年12月24日(金)、第4回を2022年1月7日(金)、第5回を2月1日(火)にwebで開催した。新型コロナウイルス感染症蔓延の関係で、当初予定していた会場に集合して開催することは取りやめ、記念式典や講演を2022年4月2日(土)13:00からライブで配信することが決定し、その準備等に向けて協議した。委員会は3月までに12回開催した。

2) 記念誌委員会

磯 博康(日本医学会担当副会長/大阪大学大学院医学系研究科教授)、坂井建雄(委員長/順天堂大学保健医療学部特任教授)、飯野正光(東京大学国際高等研究所ニューロインテリジェンス国際研究機構機構長特別補佐)、今井由美子(医療基盤・健康・栄養研究所医薬基盤研究所ワクチン・アジュバント研究センター感染病態制御ワクチンプロジェクトリーダー)、大江和彦(東京大学大学院医学系研究科教授)、大川 淳(東京医科歯科大学理事・副学長/整形外科教授)、門脇 孝(国家公務員共済組合連合会虎の門病院院長)、神庭重信(九州大学名誉教授)、岸 玲子(北海道大学環境健康科学研究教育センター特別招聘教授/名誉教授)、北川雄光(慶應義塾大学病院長・教授/国立がん研

究センター理事)、寺本民生(帝京大学臨床研究センター長・理事・名誉教授)、名越澄子(埼玉医科大学総合医療センター教授)、羽鳥 裕(日本医師会常任理事)、松下正明(東京大学名誉教授)の14名で構成されている。

第2回委員会を2021年4月20日(火)に開催し、①日本医学会120周年記念事業「日本医学会120年記念誌」についての日本医学会分科会宛アンケート結果、②120年記念誌作成について準備状況、③120年記念誌の内容と編集方針(現在の案)、④今後の編纂委員会の開催予定等について意見交換を行った。

3)「未来への提言」作成委員会

飯野正光(委員長/東京大学国際高等研究所ニューロインテリジェンス国際研究機構機構長特別補佐)、岸 玲子(北海道大学環境健康科学研究教育センター特別招聘教授/名誉教授)、門脇 孝(国家公務員共済組合連合会虎の門病院院長)、森 正樹(東海大学医学部長)、池田康夫(早稲田大学特命教授/武蔵学園副理事長/慶應義塾大学名誉教授)、稲垣暢也(京都大学大学院医学研究科教授)、春日雅人(朝日生命成人病研究所所長/国立国際医療研究センター名誉理事長)、小池和彦(関東中央病院院長)、齊藤光江(順天堂大学大学院医学研究科教授)、遠山千春(東京大学名誉教授)、宮園浩平(東京大学大学院医学系研究科教授)、羽鳥 裕(日本医師会常任理事)、長谷川敏彦(一般社団法人未来医療研究機構代表理事)の13名に、6月の改選による新たな役員および追加委員として、磯 博康(大阪大学大学院医学系研究科社会医学講座公衆衛生学教授)、川上憲人(東京大学大学院医学系研究科教授)、北 潔(長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科長)、北川昌伸(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授)、澤 芳樹(大阪大学大学院医学系研究科教授)、五十嵐 隆(国立成育医療研究センター理事長/東京大学名誉教授)、石垣千秋(山梨県立大学准教授)、石塚真由美(北海道大学大学院獣医学研究院教授)、位田隆一(滋賀大学学長)、稲葉一人(中京大学法務総合教育研究機構教授)、岡田随象(大阪大学大学院医学系研究科教授)、越智小枝(東京慈恵会医科大学葛飾医療センター准教授)、加藤和人(大阪大学大学院医学系研究科教授)、近藤尚己(京都大学大学院医学研究科教授)、杉本 研(川崎医科大学総合医療センター教授)、橋爪真弘(東京大学大学院医学系研究科教授)の16名が加わり29名で構成された。

第3回委員会を2021年8月26日(木)、第4回委員会を2021年10月28日(木)、第5回委員会を2021年12月22日(水)、第6回委員会を2022年2月2日(水)に開催し、「未来への提言」5つのキーワードに関して、それぞれのワーキンググループの取りまとめについて意見交換を行った。

なお、今年度は、長谷川敏彦(一般社団法人未来医療研究機構代表理事)「人口の未来予測－日本及び世界」「社会技術の未来予測」、坂村 健(東洋大学情報連携学部学部長/東大名誉教授)「5G時代の医療(災害時を含む)におけるITの課題や展望」、位田隆一(滋賀大学学長)「これからの医療における生命倫理の課題や展望」、中村桂子(JT生命誌研究館名誉館長)「医学・医療関係者が人間であること－生命誌で考える－」、会田薫子(東京大学大学院人文社会科学研究科 特任教授)「死生学の課題や展望」による6つの講演会を開催した。

4) 創立120周年記念事業ワーキンググループ

周年事業全体の進捗状況を管理するワーキンググループで本年度新たに発足した。

委員長:丸橋 繁(福島県立医科大学肝胆膵・移植外科教授)、掛地吉弘(神戸大学大学院医学系研究科食道胃腸外科学講座教授)、岡田随象(大阪大学大学院医学系研究科遺伝統計学教授)、アドバイザーとして林 和弘(科学技術・学術政策研究所上席研究官)の4名で構成されている。3月まで

に11回開催した。

27. 移植関係学会合同委員会

平成4年4月に発足した移植関係学会合同委員会は厚生労働省、日本医師会、関係学会で構成されており、世話人を日本医学会長が務めている。本年度は書面決議による開催を2回行い、新規移植実施施設の認定の報告を関係各位宛に行った。

2021年6月3日付

新規認定

腎臓移植実施施設 順天堂大学医学部附属順天堂医院

2021年11月9日付

新規認定

脾臓移植認定施設 琉球大学病院

肺移植実施施設 藤田医科大学病院

28. 出生前検査認証制度等運営委員会

NIPTを実施する非認定施設の増加により、適切なカウンセリングが行わないまま妊婦がNIPTを受検するケースが増えたことが問題視され、厚生労働省より本会に標記委員会を置くよう依頼があった。2021年6月の臨時評議員会にて承認されている。第1回委員会を11月1日（月）に開催し、終了後記者会見を開催した。第2回運営委員会は1月31日（月）に開催され、各ワーキンググループからの報告が行われた。

29. 日本医学会 e-News

5月にNo. 3を、10月にNo. 4を発行した。今後も不定期に発行する予定。

30. 情報発信

平成12年10月に日本医学会のホームページを開設した。日本医学会分科会の協力を得て、本会のホームページ（<https://jams.med.or.jp/>）と分科会ホームページをリンクしているが、2021年4月1日にリニューアルした。

2021年7月14日（水）に日本医師会館小講堂にて、門田会長、飯野委員長、横野委員が「日本医学会 子宮移植倫理に関する検討委員会報告書」

<https://jams.med.or.jp/news/059.html> について記者会見。

2022年3月2日（水）に日本医師会館小講堂にて、門田会長、丸橋記念式典委員会委員、坂井記念誌委員会委員長、齊藤「未来への提言」作成委員会委員が、「日本医学会創立120周年記念事業」について記者会見。

31. その他

- 1) 「日本医学会分科会一覧」を 2021 年 8 月に作成、関係各方面に配付した。
- 2) 「2022 年日本医学会分科会総会一覧」(オンライン版)を 2021 年 12 月に作成した。